

1998年新しい年を迎えます。
皆、97年は病気の子を抱え大変な1年でした。
しかし、病気の子どもがいるから充実していた1年だった
かもしれません。
辛さや絶望感を体験したからこそ命の大切さや家族が一緒
にいる幸せを感じます。家族のなにげない笑いに大きな幸
せと感謝を感じます。幸せの尺度が変わりました。

私が以前親しくさせていただいた方で、臨濟宗方廣寺派の
管長だった荒金天倫さんという老師がおられました。異色
な型破り管長としてテレビにも出ていましたのでご存じの
方もいると思います。管長は晩年ガンに冒されながらも全
身全霊をかたむけて仕事に打ち込まれました。
そんな管長が好んだ言葉が「日々是好日」でした。これは
「来る日も来る日も良い日だ」という意味ではない。
「ああ今日は良い日だった」というのは1年の内1日か2
日しかない。あとは「どうしてこんなにツイていないんだ」
とため息の出る日ばかりである。古歌に「この秋は雨か風
かは知らねども今日のつとめの田の草を取る」とあるよう
に、結果を求めずにその日その日に全力を尽くす、という
ことである。その無心になる姿、精神が大事だ。それが
「日々是好日」であると、荒金さんはその柔和な顔でよく
お話をして下さいました。
今日本は経済大国になったが、みんなが足元を忘れ狂って
いる。物質偏重で一番大事な「心」を忘れている。
イエス・キリストだって「人はパンのみにて生きるにあら
ず」と言っているのではないか。「心」こそ何ものにもまさる
尊い宝であると。
荒金管長が亡くなって早8年。子どもが病気になって改めて
この言葉をかみしめています。一日一日を精一杯。そして
98年に良い結果が出るように祈っています。

< 第 3 0 回 ほほえみの会 >

年末で看護婦さん2人を含め6人の参加でした。
「国の難病対策見直しに伴う患者自己負担導入反対」の請願署名を
患者と看護婦さんの両方でしていくことにしました。これは難病患
者家族の会連絡協議会が協力を求めてきたものです。
また、県のがんセンターに小児科を設置してほしいという署名を先
日、県議会議長と副議長に提出しました。現状と要望を聞いてもら
い、議会の委員会に諮ってもらうようにしましたが、実現は難しい
ようなニュアンスでした。

また次のような話題が出ました。
意見やお考えがあれば是非お知らせ下さい。お待ちしております。

退院後、学校に行ったときの先生や友達の理解について。
体調を気にしながらも、学校の環境に慣れさせなければいけない。
また、平気で遅刻をするなど本人が甘えてしまう点もある。

病院での友達が移植後再発し、自宅療養に切り替えた。悩む母親
にどう声をかけて良いのかわからない。

前回提案しましたアロマセラピー（香りによる心身治療）について
先生や看護婦さんも交え相談しましたが、治療をしているときは特
に匂いに敏感になっている、また病気によっては悪影響も考えられ
るので難しいのではないかという事です。もう少し研究をしてみま
す。

次会は 月 日（日）12時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一